

# CONSERVATION VOLUNTEERS Vol. 17

発行：特定非営利活動法人日本環境保全ボランティアネットワーク（略称：JCVN）

特集	環境保全ボランティアリーダー研修プログラム	p1
	研修を受講して 参加者の感想	p5
報告	山都町棚田復興プロジェクト報告	p6
	お知らせ	p8

## 特集 環境保全ボランティアリーダー研修プログラム

### ■CVI : Conservation Volunteer Institute の枠組み

朝廣和夫 （九州大学芸術工学研究院環境デザイン部門、JCVN理事長）

JCVNは、2017年11月16日より環境保全ボランティアリーダー研修プログラム（CVI: Conservation Volunteer Institute）を開始しました。本誌は、その特集です。

JCVNではこれまで、リーダートレーニング研究会などで多数の人材育成プログラムを実施してきました。今後、さらに法人として研修を充実・定例化し、より多くのリーダー、各種団体と連携し、皆様の取り組まれる社会の課題への貢献を進めたいと考えています。

また、昨今、頻発する災害を受け、私達の活動の種類に「災害救援活動」、事業として「災害時の被災者の救援や生活支援及び復興事業」を行うことを、2017年度の総会で決議し定款に追加しました。平時の環境保全ボランティア活動が、いざという時に災害復旧ボランティア活動の展開に資することが知られています。これは、平時の環境保全活動は、防災活動でもある、と言え、裏を返せば、普段、環境保全活動を実施していな

れば、災害後の速やかな復旧が遅延すると言えます。温暖化、過疎化、高齢化など、農山村、都市部においても活動を通じ、技術、経験、関係性づくりを進めておくことが大切です。

本CVIは、環境保全活動リーダーの育成に加え、そのような災害時のボランティアリーダーにも資するボランティアリーダーの育成を対象に含めました。人材育成像は、「**屋外におけるグループ活同をマネジメントできる人材**」です。屋外活動の対象の限定はしておりません。まずは、理事の関わるフィールドからスタートすることにしました。都市部の緑地保全や自然体験活動、里山保全や都市農山村交流活動、生ゴミコンポストや菜園づくりです。

このような人材育成像を実現するために、プログラム構成を次ページに示します。大きく3つの構成に分かれています。共通コース（前期/後期）、専門コース、そして、インターンシップ研修です。

1	共通コース（前期）	リーダーの役割、コミュニケーション、安全管理、リスクアセスメント (2.5時間×4回)
2	共通コース（後期）	活動計画、チームビルディング、課題解決、地域の巻き込み方 (日帰り1日講座(6時間))
3	専門コース	森林整備、コンポスト講座、ファシリテーションなど技術面のセミナーを 任意選択（JCVN各団体にて実施）
4	インターンシップ研修	JCVN関連団体（循環生活研究所、山村塾、グリーンシティ福岡、 トチギ環境未来基地、九州大学朝廣研究室）にて個別受入

図 研修プログラムの枠組み

共通コースのプログラムは、リーダーシップ、コミュニケーション、安全管理、活動計画、チームビルディングなどが含まれます。これらの内容は、これまでJCVNが研修会等で実施してきたものをベースとしています。

専門コースは、先に書きました理事の関わる団体で行われる森林整備、コンポスト講座、ファシリテーションなどの技術面のセミナーです。この共通/専門のコンビネーションは、「共同による人材育成活動」を目指すことを意図しています。

最後にインターンシップ研修です。数日間、各団体の活動に参加し、どのような活動が行われているかを学びます。

以上のような構成には、私達からのいくつかのメッセージを含めています。一つ、活動現場にリーダーが必要であるということ。二つ、リーダーのいる、より多くの活動現場が必要であること。

三つ、より多くの参加者が活動できるよう、安全で楽しいマネジメントが必要なこと。四つ、共同で学び合い、多様な活動との連携を深めることです。特に、この四つ目は、今回のCVIの要の概念です。JCVNの活動をより強固にすると共に、災害復旧支援等、今後、想定される事象への対応力の備えが必要だと思われるからです。NPOの魅力は創造的であることです。将来的に、受講生の中から、新たな繋がりができ、専門コース、インターンシップの場が増えていくと良いと思います。その輪が広がるのが、NPOの創造力の源泉であり、新たな時代に対応する力になると期待しています。

最後に、2017年度は、共通講座（前期）を全4回で実施しました。本誌では、講座の内容と参加者から寄せられた感想を掲載いたします。

## ■共通コース 前期 全4回の紹介：第1回 リーダーの役割

朝廣和夫（九州大学芸術工学研究院環境デザイン部門、JCVN 理事長）

CVIの第1回は、リーダーの役割をテーマに開催しました。

と き：2017年11月16日 18:30-21:00

と ころ：福岡市 NPO ボランティア交流センター

参加者：12名

本テーマの講座は、JCVN が最初に実施する内容です。主な学びの目的は、リーダー像とリーダーシップを理解する、という視点におかれています。下記にプログラムを示してみます。

リーダーのイメージ（グループで描写）  
チームゲーム（リーダーシップの体験）  
リーダーの役割とは？

そして、最後にリーダーモデルの紹介を行います。

一般的に、リーダーは、「カリスマ」を持っている人、私は・・・、というイメージがあるかも知れませんが、この講座では、具体的にリーダーのイメージ、資質、役割を出し合い、確認することで、実は、リーダーシップは分担できること、また、コミュニケーションが大切なことに気づくことができます。

この気づきは、チームゲームで体感する事ができます。難しい作業を共同で行う場合、皆のアイデアを出したり、心を一つにすること、また、実践するには声を掛け合うことなどの大切さです。

そうは言っても、仲間と分担できないリーダーの役割があります。判断力、決断力、責任等です。これを養うにはフィールドでの活動も必要です。講座は大切ですが、最も大切なのは、現場で実施できることです。本講座は、その力を養う、最初の一步です。



リーダー像をチーム考え発表します



チームゲームでリーダーシップを確認



ふり返りは輪になって確認



研修は少人数で行っています

## ■第2回 コミュニケーション

志賀 壮史 (JCVN理事、NPO法人グリーンシティ福岡理事)

CVI第2回は、現場リーダーとボランティアのコミュニケーションをテーマに開催しました。

とき：2017年12月22日 18:30-21:00

ところ：福岡市NPOボランティア交流センター

参加者：7名

一口にコミュニケーションと言ってもとても幅広い内容になってしまいます。この回は、現場リーダーが日頃行っている三つの場面を想定して実習や講義を行いました。

- |                    |
|--------------------|
| 1対多で「伝える」__ツールトーク  |
| 1対1で「伝える」__フィードバック |
| 1対1で「聴く」__傾聴       |

「ツールトーク」は、剪定バサミや切り出しナイ

フ、ノコガマ、ノコギリなど、環境保全活動に使う道具を持ち、参加ボランティアの前で説明を行う実習です。名称や使い方、運搬方法など伝えるべき内容を知っておくことも大切ですが、同じくらい、声の大きさやトーン、表情、目線の配り方、参加ボランティアとの距離感などといった「伝え方」を身に付けることが重要です。

言葉ではなく身体で伝える「ジェスチャーゲーム」のアイスブレイクで盛り上がった後は、「傾聴」についての実習。ペアになり、相手に話を聞いてもらえない1分間と聴いてもらえる1分間の違いを体験し、聴くことの効果を体験する内容です。丁寧に聴くことは、ボランティアの要望や体調を活動に反映したり、リーダーとしての信頼を得ることにつながります。

最後の30分間は予定を変更して、参加ボランティアへのコメントや指摘の仕方を含む「フィー

ドバック」についての意見交換を行いました。全員で円になり、「なかなか言うことを聞いてもら

えない時はどうしたらよいか？」など、日頃の課題や疑問を出し合いました。

### ■第3回 安全管理概論

小森 耕太 (JCVN副理事長、NPO法人山村塾事務局長)

と き：2018年1月17日 18:30-21:00

ところ：福岡市 NPO ボランティア交流センター

参加者：9名

どんなに魅力的で意義ある活動も、ひとたび事故が発生すると全てが台無しになってしまいます。安全は何よりも優先します。CVI第3回「安全管理概論」では、なぜ安全管理が必要なのかを皆さんと考えることから始まり、安全管理の講義に入りました。

研修後半では、過去のリーダートレーニング研究会(LT研)にて、理事の志賀氏から紹介され

た「事件事例研究」の新しいプログラムも登場し、事故が起きる(起きた)背景や状況を推測しながら、事故が起きないようにするにはどうしたらよいか、をディスカッションしました。具体的な事件事例を見つめなおすことでいろいろな気づきが得られました。

研修の合間には、グリーンシティ福岡と山村塾の2団体で使用している救急セットを比較し、その使用方法や注意事項などについて質問を交えながら解説を行いました。活動する場所や内容によって中身が異なり、質問も盛り上がりました。

### ■第4回 リスクアセスメント

小森 耕太 (JCVN副理事長、NPO法人山村塾事務局長)

と き：2018年2月22日 18:30-21:00

ところ：福岡市 NPO ボランティア交流センター

参加者：8名

最終回は JCVN 定番の「リスクアセスメント(RA)」を、いつもとは少し手法を変えて実施しました。過去のRA実習では提示された活動計画を見ながら、リスクを抽出し、その評価と対策を検討するまででしたが、今回はその続きとして、検討されたRAをもとに、オリエンテーションで子供たちに安全面の注意を行うというロールプレイを行いました。

どんなに事前準備を行っていたとしても、それが現場で実践できるかがリーダーの手腕です。

第2回コミュニケーションで行った「ツールトーク実習」も人前で話すプレゼンテーションの実習でしたが、その時よりも格段にレベルアップしており、適度な声量と立ち居振る舞い、要点を押さえた説明が素晴らしかったです。

研修後、朝廣理事長から8名の皆さんに前期の修了証書授与を行い、皆さんからも一言ずついただきました。第4回に欠席された皆さんには後日お届けさせていただく予定です。

平成30年度もCVI前期および後期プログラムを実施していきます。環境保全活動や災害支援などの現場での活動をされる皆様のご参加をお待ちしております！



お互いのヒヤリハットを共有します



講師陣の救急セットを紹介

## 研修を受講して 参加者の感想

### ■環境保全活動リーダー研修 共通コース前期に参加して

山崎 喜代子 (愛宕の森と緑を守る会)

私は、福岡市西区で「愛宕の森と緑を守る会」を立ち上げて3年になるが、共同代表のひとりとして愛宕山の自然の調査と保全活動を担当している。

長い教員生活の職業病ともいえるべきであろうか。無意識のうちにリーダーシップを取って、気づけば一人で仕事を抱え込んでしまうことも少なくないのである。

ともあれ森づくりは私には初体験であり、試行錯誤の日々であったので、グリーンシティ福岡の志賀壮史さんから声を掛けられて二つ返事で本研修に参加することになった。

第1回の「リーダーの役割」では「リーダーは個人、作業、チームの3つの要求をバランスよくまとめること」、「仲間をまとめる」「作業を進める」

「安全を確保する」「課題を解決する」の「リーダーの4つの『チカラ』」、「シェアード・リーダーシップ」という概念を知って、目からウロコであった。第3回安全管理では、岐阜県大垣市での森林イベントで起きた小学生死亡事故を知り、市民参加の愛宕の森づくりのリスクについて改めて考えさせられた。また、山村塾で実際に使っている「実施計画書」、「医薬品箱リスト」を教えていただき、さっそく愛宕の会に持ち帰って利用させてもらった。第4回リスクアセスメントでは、実施計画書を作って危険を予見する重要性、催事の対策と対応の必要性を痛感した。少し退屈な時間もなくてはなかったが、環境保全に熱心な若者たちをまぶしく眺めながら楽しい時間であった。

田端 雅威 (NPO 法人福岡シュタイナー学園 ホレおばさんの家)

今回、講座を受講し、現場リーダーの役割について多くのことを学ばせていただきました。

私の中で現場リーダーとは「進行する人」イメージがありました。しかし、ただ進行するだけではありません。道具の管理、現場の安全確保、雰囲気づくり等、いくつもの事柄を頭で考えながら進行を行っていることを改めて認識させていただきました。

講座の内容には、講義に加えて実習の時間もあり、同じく受講されている方々とコミュニケーションをとることもできました。中でも一番思い出深い実習は円筒状の画用紙を数人の指に乗せ地面まで下ろすといった内容でした。初めは下ろしているつもりが、どんどんと上がっていきまう不思議な現象が起こっていました。そこでお互

いに掛け声をかけるようにしました。するとゆっくりながらも画用紙が下に向かって行くようになりました。

私たちはそこらからいかにコミュニケーションが大切かを実感しました。作業中など声を掛け合いながら行うことで事故を未然に防ぐことができます。スタッフ間で共有を行って行くことも参加者に安全で楽しく過ごしていただく上で大切なことです。このことを考えながら、コミュニケーションを大切にしていきたいと思いました。

全4回を通してリスクマネジメントやコミュニケーション、フィードバックの方法など現場リーダーを行う上で大切な基礎を学ばせていただきました。ありがとうございました。

西濱 宏 (NPO 法人福岡被災地前進支援)

私は他 NPO において災害ボランティア活動、防災啓発活動を行っておりますが、その活動について、より楽しく、安全円滑に活動できるようになりたいと思い本研修に参加いたしました。講師

の方々は日ごろから先進的な「環境保全活動」を行っておられる方々であり、現場に即した内容について実体験を交えながら語っていただきました。全4回の研修において、実際に現場で「人

はどう反応するか、という観点で物事を見ることが出来たことは私にとって大きな発見となりました。私はエンジニアという職業柄、内容の正確性を大事にしておりますが、ただ正確で有ればよいわけではなく、飽きないように「時間配分」や「話す内容」を精査したり、活動を楽しんでもらえるように、プログラム構成を考えたり、参加者個人の参加動機を推察したりと、参加者に対する配慮について理解を深めることが出来ました。ま

### 本田正之（NPO 法人循環生活研究所）

JCVN が主催する「環境保全活動リーダー研修」を受講しました。これは安全で楽しい活動を運営する現場リーダーとして必要なスキルを学ぶもので、今回は基礎的な技術を学ぶ「共通コース前期」が開催されました。オフィスの中にもって仕事をしていた私が環境活動の現場に転職して半年。現場活動に必要なスキルを身につけ、高めていくチャンスだと思い参加しました。

研修での学びはすぐに現場での仕事に活かすことができました。ひとつはリーダーとしての役割を認識し、その行動を心掛けるようになったことです。それまでは現場での自分の仕事に没頭することが多かったのですが、活動の全体像や個別の作業、参加者の様子などを意識するようになりました。

た、災害を防ぐことと環境を守ることは関係していることにも気づかされ、環境保全活動自体について興味を持つきっかけにもなりました。社会を良くしようと様々な活動している方々と知り合う機会となったことも、参加してよかったことの1つです。より有意義な活動ができるように、学んだことを意識して活動に当たりたいと思います。講師の方々が主催されるイベント等にも是非参加してみたいと思います。

また、安全管理の学びは新しい気づきが多くありました。環境活動の場合、天候や参加者の疲労具合によって変化するため、その都度リスクアセスメントを行う必要があります。考えられる危険を全て洗い出して予測する重要性が理解できました。早速、仕事の現場でもリスクアセスメントを行い、救急セットを見直し、新たに手配しました。

このリーダー研修は、講師による一方的な講演ではなく、受講生がテーマごとに話し合い、考えるスタイルで進められました。自分の経験をもとにしたり、参加者同士で予想をして考えるため、学びが多く深く身に着いたと感じています。これからもリーダーとしての自覚を持った仕事に励みたいと思います。



共通コース（前半）4回を行い、最終日に修了証をお渡ししました。なお、4回の出欠は記録しており、欠席の講座は今後の受講が望まれます。ステップを踏みながら、講師も受講生も精進します。大切なのは現場です。

## 活動報告

### ■山都町棚田復興プロジェクトを実施して

小森 耕太 (JCVN副理事長、NPO法人山村塾事務局長)

平成28年熊本地震から2年経ちました先の災害では豪雨災害により多くの農地や農業用施設が被害を受けました。その多くは国や県の災害復旧の補助事業により復旧が進むと思われませんが、熊本県山都町の棚田などの条件の不利な小規模農地においては、農家の高齢化も重なり、補助事業を利用することが困難なケースが多く見られます。(※山都町では農地災害は3000カ所以上の報告があり、今後、まだ増加すると予想されています。)

そこで、本事業では、現場型の環境保全ボランティア活動や集落支援についての専門知識を持つ団体や人材が連携し、山都町白糸台地の棚田地域をモデル地として、農地農村の復興支援に取り組みました。

#### ● 棚田再生ボランティア活動の実施

時期：平成29年8月27日、11月11～12日、平成30年3月10～11日 計3回実施

※12/10は天候不順のため中止

場所：熊本県山都町白糸地区の棚田、11月以降は旧白糸保育所を拠点に実施しました。

対象：一般市民、関係団体会員、山都町住民

内容：地震・豪雨で崩落した棚田の復旧作業、水路の泥上げ、草刈りなどの農地の維持管理、農作

業の手伝い等

8月27日： 通潤用水路の井手切り(草刈り作業、草刈り後の草片付け)

11月11～12日： 農地や用水路等被災状況の視察、通潤橋修復作業

※茶畑の復旧作業を予定していましたが、スズメバチの巣があり群舞しており、危険があると判断。作業内容を変更して実施しました。

3月10～11日： 崩落した棚田の復旧作業、通潤用水の井手浚いを行いました。

毎年3月、6月、8月に行われる通潤用水関係者による水路管理作業については、都市部からの一般市民や地元学生などをボランティアとして巻き込む形で体制が整ってきました。しかし崩落した棚田や水路の復旧作業については、公共工事の不落が続いていることと、不在地主との調整が進まないこともあり、なかなか進んでいません。今後は、ニーズを拾い上げ、現場の運営をコーディネートできる人材の確保を目指す必要があります。

また11月から利用している旧白糸保育園園舎の活用についても、地域住民と協議しながら進めていきたいと考えています。



通潤橋での草取り支援風景



棚田でのしがらづくり風景

## お知らせ

## イベント・ボランティア情報

### ●第10総会のご案内

会員の皆様へ

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。日頃から当法人の運営にご理解、ご協力をいただきありがとうございます。

さて、特定非営利活動法人日本環境保全ボランティアネットワーク第10回総会を下記のとおり開催いたします。ご多忙の時期とは存じますが、是非ご出席賜りますようお願い申し上げます。

記

日時：平成30年5月17日（木）  
17：00～18：00

場所：九州大学大橋キャンパス2号館4F  
（福岡市南区塩原4-9-1）

以上

### ●CVI：環境保全ボランティアリーダー研修プログラムのご案内

本誌で紹介しましたように、2017年は前期を実施しました。2018年度は、下記をフルコースで実施する予定です。

#### 共通コース（前期）

今年も共通コース（前期）を実施します。2017年度に受講し忘れた内容がある方、新しく受講を希望される方は、下記の日程でご参加ください。

#### ◇6月21日（木）

内容：リーダーの役割

とき：18時30分～21時

場所：未定

#### ◇7月11 or 12日

#### ◇8月1 or 2日

#### ◇8月22 or 23日

#### 共通コース（後期）

#### ◇10月7日（日）

内容：活動計画、チームビルディング、課題解決などの内容を行います。

とき：9時～17時（予定）

場所：未定

#### 専門講座・インターン

専門講座は、コンポスト講座、ファシリテーション講座、手道具・ノコ・ナタの講座を実施する予定です。インターンはワークキャンプ2週間、

このす里山くらぶでの体験、循環生活研究所のローカル・フード・サイクルの実習を予定しています。これは、共通コースの受講生を対象とします。個別にお問合せください。

### ●JCVNの仲間を広く募集しています！

あなたの支援が、「いつでも」「どこでも」「だれでも」できる環境保全活動をめざした団体のネットワークづくりの力になります。入会申込書をご送付いたしますので、事務局までお問い合わせください。

JCVN理事をはじめ、環境保全活動の専門家のノウハウが詰まった会報が、年に3回お手元に届きます！また、メーリングリストでもJCVNが開催・協力するイベント情報等を随時ご案内いたします。

活動への寄付も受け付けています。環境保全団体のネットワークづくり、リーダー育成支援のため、皆さまのご協力をお待ちしています！

- ・個人正会員（¥10,000／年）
- ・個人賛助会員（¥5,000／一口以上）
- ・団体正会員（¥20,000／年）
- ・団体賛助会員（¥10,000／一口以上）

[会費・寄付振込口座]

番号：01760-9-122407

名称：日本環境保全ボランティアネットワーク

CONSERVATION VOLUNTEERS 17

■発行日：平成30年4月19日

■発行頻度：年3回

■発行：特定非営利活動法人日本環境保全ボランティアネットワーク（略称：JCVN）

■事務局：〒810-0022福岡市中央区薬院4-5-2-202  
tel/fax: 092-215-3966  
e-mail: jcvn@greencity-f.org